

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : sakuta@bukkyo-u.ac.jp

郵便振替口座：001704-4-56341

編集責任者：作田誠一郎（庶務理事）

【目次】

1. 学会大会の開催にあたって	2
2. 第34回日本社会病理学会大会のお知らせ	2
3. 編集委員会からのお知らせ	4
4. 渉外・広報委員会からのお知らせ	5
5. 2018年度第1回理事会報告（議事抄録）	6
6. 会員コーナー（近況報告）	7
7. 会員の新刊書の紹介コーナー	7
8. 会員異動	7
9. 事務局より	8

重要事項

1. 平成30年6月に発生した大阪北部地震、および平成30年7月豪雨において被害を受けられた会員各位、そして関係するすべてのみなさまに、衷心よりお見舞い申し上げます。1日も早く、平穏な日々に戻ることができますよう、お祈り申し上げます。
2. 第34回大会は9月29日（土）～30日（日）に関西学院大学にて開催されます
3. 2017年度より、学会ニュースは年2回（8月・1月）の発行となります。

1. 学会大会の開催にあたって

関西学院大学 佐藤哲彦（大会実行委員長）

日本社会病理学会会員の皆様を関西学院大学にお迎えできることを大変嬉しく思います。関西学院大学は1889年に神戸市灘区の前田の森にキリスト教主義学校「関西学院」として設立され、その後1929年に現在の西宮市上ヶ原に移転した比較的古い大学です。その呼び名はアメフト関係の問題で最近少し話題になりましたように「カンサイガクイン」ではなく「カンセイガクイン」ですが、そもそもは設立当時の進取の気風に合わせた漢音の「クワンセイガクイン」が実は正式な読み方となります。英語でも「Kwansei Gakuin」と表記しております。このように多少古風なところもある大学ですが、その進取の気風そのものはいまだ残っているのでしょうか、LGBT コンシャスネスを掲げたレインボーウィークをいち早く2013年に開始しLGBTに関する映画上映や講演会などを毎年開催しており、またSNSなどを活用することも多く、一時はFacebookで日本一「いいね」が多い大学とされたりもしておりました。

そもそも関西学院大学のある西宮市は、関西ではよく知られた文教地区でもあり、また関西で最も住みたい地域の一つともされています。これには関西の私鉄文化、もしくは阪急文化が強く影響していると思われる。大阪と神戸の中間地点という地の利もありますが、それ以上に、いわゆるモダニズム文化の影響が色濃く残っている地域でもあるからです。戦前にはこの周辺の阪神間のアマチュア写真家たちにより新興写真運動が近代写真の重要な部分を担いましたし、『細雪』の谷崎潤一郎は阪神間で何度も引越をしつつ一時期は西宮市に居住しておりました。今年一月にNHKで放映された『平成細雪』では西宮市が舞台となっておりますので、ご存じ方も多いかもしれません。また、現在でも宝塚劇場や手塚治虫記念館が大学から数駅先の宝塚にあります。しかしその一方で忘れてならないのは、地元の西宮郷が灘五郷の一つと知られる酒蔵地帯でもあることです。そのため珍しいことに、西宮北口駅構内に生酒を量り売りする店もございます。モダニズム文化の足元は江戸時代からの酒蔵でもあったわけですから。このように伝統的でありつつも新興文化的な雰囲気を残す地域において、会員の皆様が実りある議論ができますように、大会校としてできるだけの準備をさせていただこうと思っております。

大会の準備は佐藤が院生たちや研究員たちと一緒に進めております。会員が少ないために至らぬ点もあるかと思いますが、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

2. 第34回日本社会病理学会大会のお知らせ

2017年度は犯罪系学会の合同大会でした。今年はいつものように単独の大会に戻ります。研究委員会では自由報告部会とは別に、シンポジウムとラウンドテーブルを企画しています。社会病理研究の今後を考える上で重要な課題を対象にしています。課題を切り取る視点やその内容の多様性はもちろんですが、研究の方向性や研究方法についても交流できるようにしたいと考えています。

1. 大会シンポジウムについて（9月30日）について

テーマは「社会病理と『公共』の社会学」です。社会病理学会は、社会問題の診断だけではなく、「処方」も構想することを目的としています（学会 HP より）。「処方」に関して従来から社会的要請は強くありました。しかしそれは争点を成しており、問題の定義以上に何が解決なのかについては一義的に決められない面もあります。

しかし、「公共」あるいは「公私関係」への社会的な関心の広がりがあり、「処方」について批判的に検討し、問題の解決について考えていく際に、「公共的なもの」とのかかわりでその「処方」を措定し直し、「問題の定義と解決」の共軌関係を吟味することは不可欠な作業だと思われまます。これは社会病理の「解決」にむけた政策・制度をいかに組成していくのかという問いでもあります。そこで「処方」をかかげる政策・制度論について、「公共」の社会学の視点からとらえ直し、現代社会の諸課題を照射していくこととしました。

「問題の定義と解決」の組成のされかたやそれを支える機制について、たんに「処方」の再検討ではなく、それらを束ね、正統性を付与し、社会意識に根ざし、人々の態度をつくりだす「公共」について問い直すことを試みていきます。当事者のつくられ方、問題解決のもつ問題性、社会病理の「処方」とは何か、臨床実践はいかに成立するか、公私のあいだにある問題群、包摂や統合のもつ問題点、遍在する優性思想等を視野に入れ、「公共」の社会的検討をとおして社会病理学のあり方について吟味しておきたいと考えました。今回は、再犯防止・更生保護、加害者家族の立ち位置、社会的統合、優性思想に焦点を当ててこうした課題に迫ります。以下の方々に登壇をお願いしています。

三浦恵子さん（東京保護観察所）

「『当事者性』という観点から保護観察処遇と更生保護を考える」

高橋康史さん（名古屋市立大学）

「加害者家族問題からみえてくること-公私関係の焦点となる家族のありか」

安田恵美さん（國學院大学）

「フランスにおける『自由刑』のかたちと『社会的排除』・『社会参加』の概念」

松原洋子さん（立命館大学）

「新優性思想と公共-強制不妊手術問題からみえてくること（仮）」

2. ラウンドテーブルについて（9月29日）について

テーマは、昨年度の課題を引きつぎ、「社会病理・社会問題研究の可能性Ⅱ（社会的排除はいかに研究しうるか）」にしました。社会病理・社会問題研究の対象の幅が広がりつつあります。非行、いじめ、自殺のように、従来から社会問題化されてきた社会病理現象だけではなく、失踪・家出、逃走、いじり、無視、多様なハラスメント、ネットいじめ・リベンジポルノ、社会的迷惑行為、微細な日常的差別（マイクロアグレッション）、セルフネグレクト、ヘイトとフォビア、アウトティングとカミングアウトの相克等です。これまでは十分に扱いきれなかった現象、名付けにくいもの、不可視化されているものに対象を定める研究が増えつつあります。昨年度のラウンドテーブル（自殺、動機の語彙、男性の暴力、アディクション）では、多様な対象をそれぞれの研究者がいかに扱ってきたかについて再確認し、本学会がそうした対象を研究するプラットフォームとなることはできないかについて摸索を試みました。こうした研究をひとまず「広義の社会的排除研究」と位置づ

けました。また、対象の多様化を確認しつつ、研究方法についても考える機会にします。これまで十分に扱いきれなかった対象を扱うためには、やはり方法に関しても従来の手法が使えるかどうか吟味が必要となります。主に若手の研究報告をもとにして、今後の社会的排除研究の方向性を見いだしていきます。以下の方々に話題提供をお願いしています。

中森弘樹さん（京都大学）

「失踪の研究は何を意図しているのか」

齋藤直子さん（大阪市立大学）

「『関係ないよ』の意味するもの・部落出身者の『うちあけ』をめぐって」

金 友子さん（立命館大学）

「ヘイトの構図（仮）」

野島那津子さん（大阪大学）

「『病気』と見なされにくい病にみる排除と希望」

3. スケジュール

大会の日程は以下の予定です。多くの会員の参加をお願いします。

1 日目（土）

11:00～12:00 理事会

12:00 受付開始

12:30～12:40 開会式

12:40～14:10 自由報告部会

14:20～16:40 ラウンドテーブル

16:50～17:50 総会

18:00～20:00 懇親会

2 日目（日）

10:00～12:00 自由報告部会

13:00～16:00 シンポジウム

（研究委員会委員長 中村正）

3. 編集委員会からのお知らせ

現在、9月の大会に間に合うように、機関誌『現代の社会病理』33号の編集作業が進行中です。7月から9月上旬にかけて、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆の先生方ご協力よろしくお願ひいたします。

（編集委員会委員長 金子雅彦）

4. 渉外・広報委員会からのお知らせ

2018年度秋季の国内学会大会情報をご案内いたします。

◎日本犯罪社会学会第45回大会

日程：2018年10月20日（土）・21日（日）

場所：西南学院大学

(1) シンポジウム

テーマ：犯罪者処遇はどう変わるのか？

コーディネーター・司会：山口直也（立命館大学）

シンポジスト：山下幸夫（東京弁護士会）、笹倉香奈（甲南大学）、本庄武（一橋大学）、
武内謙治（九州大学）

指定討論者：津富宏（静岡県立大学）、中島学（法務省矯正研修所）、
小長井賀與（立教大学）

(2) テーマセッション

①テーマ：犯罪社会学におけるナラティブ・アプローチの可能性と課題

コーディネーター：仲野由佳理（日本大学）

②テーマ：犯罪・非行からの立ち直りの理論と支援の理論—少年矯正、支援者、グッドラ
イフモデル、オープンダイアログ、そしてセルフヘルプの視点から—

コーディネーター：相澤育郎（立命館大学）

③テーマ：回復の道のり：対立から対話へ—それぞれの声を持ちよって、新たな地平を切り
拓こう—

コーディネーター：五十嵐弘志（NPO 法人マザーハウス）

④テーマ：条件反射制御法の基盤理論が導く司法改革とその概要

コーディネーター：平井慎二（独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター）

⑤テーマ：刑事政策学の復権Ⅳ：刑事政策学のこれから

コーディネーター：松原英世（愛媛大学）

⑥テーマ：「入り口」支援は“悪”なのか—治療的司法理念に基づく回復支援・問題解決
型司法を考える—

コーディネーター：指宿信（成城大学）

⑦テーマ：暴力団対策—加入と離脱の今日的課題—

コーディネーター：廣末登（久留米大学）

⑧テーマ：更生保護における「地域」とはどこか

コーディネーター：高橋有紀（福島大学）

※詳細につきましては学会ウェブサイト（<http://hansha.daishodai.ac.jp/index.html>）をご覧ください。

※本学会と日本犯罪社会学会は連携協力を進めているため、双方のニューズレターにおいて公開シンポジウムや年次大会などの情報を案内することになっております。

◎日本教育社会学会第70回大会

日程：2018年9月3日（月）・4日（火） <一部各種会合等9月2日（日）>

場所：佛教大学紫野キャンパス

※詳細につきましては学会ウェブサイト (<http://www.gakkai.ne.jp/jses/>) をご覧ください。
※今回は平日開催となります。また、前回よりも大会日程が1ヶ月半ほど早まっておりますのでご注意ください。

◎日本社会学会第91回大会
日程：2018年9月15日（土）・16日（日）
場所：甲南大学岡本キャンパス

※詳細につきましては学会ウェブサイト (<http://www.gakkai.ne.jp/jss/>) をご覧ください。
(渉外・広報委員会 田中智仁)

5. 2018年度第1回理事会報告（議事抄録）

1. 日時：2018年6月23日（日）13:30～16:00
2. 場所：一般社団法人 青少年問題研究会 事務所
3. 出欠：出席者11名（朝田佳尚、金子雅彦、作田誠一郎、佐藤哲彦、清水新二、高野和良、竹中祐二、田中智仁、中村正、麦倉哲、矢島正見）で定足数を満たした。他に、高原正興庶務委員、辻正二学術奨励賞選考委員長が同席した。

4. 議題

①第34回大会プログラムの件

佐藤哲彦理事・大会実行委員長より、配付資料に基づいて会場等についての説明が行われた。

中村研究委員長より、配付資料に基づいて次回大会のスケジュール等についての説明が行われた。

②機関誌「現代の社会病理」第33号の編集の件

金子編集委員長より、配付資料に基づいて進行状況の確認がなされた。

③学術奨励賞の選考について

辻正二委員長より、出版奨励として自薦3件、出版助成として自薦1件、研究奨励として他薦1件があった旨の報告がなされた。なお、研究奨励については、出版奨励1件と重複しているため、そちらでのみ審査することが確認された。また、応募のあったそれぞれの内容について、委員会での選考評が報告された。

委員長からの報告内容に沿って、学術奨励の可否について理事会で議論がなされ、決議された。

④入会・退会希望者の承認の件

6名の入会申し込みと5名の退会希望を承認した。また、作田事務局長より、会費納入の催促の結果をふまえて、5年間長期未納の会員について報告があり、該当者2名を会員資格喪失による退会扱いとすることが承認された。

5. 報告

①竹中庶務理事より、Webサイトの改定作業について、また次回ニュースレター作成作業の進行スケジュールについて、それぞれ報告がなされた。

②高原庶務委員より、2017年度の会費納入率は概ね80%程度であることが報告された。

③田中渉外・広報委員会担当理事より、社会学系コンソーシアムについて、2018年度の犯

罪関連学会幹事学会について、2020年度の日本犯罪社会学会がアジア犯罪学会と共催で計画されている点について、それぞれ報告された。

④出版企画について、朝田理事より配付資料に沿って経緯確認と進捗状況の報告がなされた。

(庶務理事 竹中祐二)

6. 会員コーナー（近況報告）

○竹中祐二（北陸学院大学）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

本務校へ着任して以来、教育社会学的な業務・研究に取り組む機会が増えました。とりわけ「チーム学校」論やスクールソーシャルワークについての研究を進めております。一方で、従来からの関心に沿って、「非行少年の立ち直り支援」のあり方について、それを達成する社会のあり方とは何か、考え続けています。

(2) 著書・論文等

2017「スーパービジョン論を通じたBBSにおける自己研鑽についての検討」『更生保護学研究』（11）37-45

2018「子どもの貧困問題への対応と『チーム学校』—スクールソーシャルワーク実践を補助線として—」北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部編『教職課程研究』（5）35-40

2018「非行少年の立ち直りにとって学校は何を果たし得るか—教育社会学の視点から—」『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』（10）59-72

7. 会員の最新刊書の紹介コーナー

*事務局では、会員による最新刊書の情報をお待ちしております。

*自薦・他薦を問わず、最新刊書の情報をお持ちの会員は、事務局までご一報下さい。

作田誠一郎『近代日本の少年非行史』学文社 2018 7,560円

廣末登『ヤクザの幹部をやめて、うどん店はじめました。』新潮社 2018 1,404円

8. 会員異動

※個人情報につき削除

9. 事務局より

1. 過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元のない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年（第1～4回大会）

2. 会費のお支払いについて

2017年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2016年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

- (1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」（会則第19条2）という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。
- (2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。
- (3) 2011年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が15年以上で70歳以上の方が対象となります。終身会費として5,000円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌1,500円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。
- (4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さい。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail可）にて事務局までお知らせ下さい。

4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ（<http://socproblem.sakura.ne.jp>）からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

以上

2018年8月24日

殿

日本社会病理学会
会長 清水 新二
(公印省略)

学会 出席・発表のための出張扱いについて（ご依頼）

日本社会病理学会では、来たる9月29日（土）・30日（日）に、関西学院大学（兵庫県西宮市）において、日本社会病理学会第34回大会を開催いたします。

つきましては、本大会に出席・発表する下記会員について、出張扱いその他のご便宜をお取り計らいくださいますようお願いいたします。

記

1. 氏 名
2. 所 属
3. 発表題目

*公印が必要な会員におかれましては、事務局までご連絡下さい。